

れんげ祭り、子どもの頃を思いだし



散策の会は4月29日(日)に行われた市民れんげまつりに参加しました。豊中駅前からバスに乗りましたがほぼ満員状態で、この催しを楽しみにしている方たちが多くおられるのだということを感じました。れんげ草の広がる光景は日本の原風景。子どもの頃、れんげ畑で過ごした多くの思い出があります。

会場に到着すると、幼い日々と同じように座り込み、駆け回ったり、髪飾りを編んだりする子供たちがいて、時が過ぎても何も変わらないのものがあるという事にほっとしました。100円で野菜のもぎ取りは生育が悪く10センチくらいにしか伸びていませんでした。会場には沢山の屋台も出て道路をすれ違うのも大変なほどでした。今回の参加者は17名、みんなで畑に座り込み思い出に浸りました。

このれんげ祭りも今年で最後とか。色々な問題があるのだと思いますが複雑な心境でした。その後バスで伊丹スカイパークに移動、それぞれが用意した昼食を食べ、ひとしきりおしゃべりに興じました。この広い空間に集う沢山の人々、見つめる大空が心を癒し穏やかにしてくれるような気がしました。つつじが満開で花を觀賞後帰途に着きました。

下見のため、この全コースを自転車で回って下さった鈴木陽子さん、木下妙子さん、資料を用意して下さいました清水正弘さんありがとうございました。

「伏尾荘」でも民謡と踊りのボランティア

3月に行った古江台ホールでの民謡と踊りのボランティアに続き、4月23日に特養老人ホーム伏尾荘で民謡と踊りの発表会を開きました。会員も三回目の発表会であり、40人ほどの方々を前に大張り切りで歌い踊り、最後には「故郷」をいっしょに歌う楽しい一日でした。

(木村良三)

(吉田光代)

第13回いけだ「春団治まつり」に参加しました

平成10年、初代・桂春団治の顕彰碑が池田市豊島南の受楽寺に建立されて以降、同寺で毎年桂一門や後援会が集まってその功績を讃え、末永く「春団治」が継承される願いを込め「春団治まつり」が開催されてきました。

13回目を迎えた今年も28、29日の両日にわたって盛大に行われました。3つの会場に分かれて一門による落語会、各種露天や屋台村、昔あそびが催されました。第3会場の豊島野公園では骨董市、NPO市、古本市、フリーマーケット等が開催され、特設ステージでは踊り、歌、大喜利と多彩な催しが一日中にぎやかに繰り広げられました。

わがナルク「わかばの会」は公園の中央部に出店し、PR用パネル展示し、エンディングノート・ふくろう・木工品の販売とバルーンパフォーマンスを行いました。皆さんのおかげで、エンディングノート6冊、ふくろう41個、木工品5個が売れ合計11,000円の売り上げがありました。「ふくろう」を作って頂いた荒尾さん・濱岸さん、木工品を提供して下さいました河原さんに厚くお礼を申し上げます。また暑さの中、参加された15名の皆さんに心からお礼申し上げます。

(岡田吉正)

